

資料 総 4 8 - ( 3 )

# 会議資料のペーパーレス化について

## 1. 背景

- 昨今の情報技術の発展により、電子政府の推進が進められている。
- 政府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（本部長：内閣総理大臣）が決定した「電子行政推進に関する基本方針」（平成23年8月）でも、電子化を前提とした行政運営への抜本的改革を進め、効率化を実現することが明記されている。その具体的な取組のひとつとして、ノンペーパーミーティング（電子化会議）がある。
- 地震本部の地震調査委員会においても、平成26年5月より電子化会議を開始し、実際に省力化、資源の節約が図られているところ。また、調査観測計画部会でも、次回以降は電子化会議とすることを決定した。

## 2. 現状と課題

(出席者にとっての課題)

- 膨大な印刷物の中から、議論に関連する資料、文言を探し出すことは容易でない。
- 机上資料は、ファイルが大きく、閲覧しづらい。

(事務局としての課題)

- 会議資料と机上資料の印刷や、机上資料のファイル綴じに手間を要している。
- 資料の差し替えなどが生じた際にも手間がかかる。

(その他)

- 紙資源の消費が大きい。

## 2. 現状と課題

今年度の予算の審議では、  
以下の枚数の紙を配布：

第44回 174枚

※評価シートを含まない

第45回 60枚

第46回 108枚

第47回 79枚

机上資料 314枚

※各回30部とすると、合計で  
22,000枚以上を消費。

また、第46回会合では計  
28冊の資料を配布(右図)。

### 地震調査研究推進本部政策委員会第46回総合部会 資料一覧

本日配布させていただきました資料のご確認をお願い致します。不足がございましたら、会議途中でも結構ですので、事務局までお知らせください。

(資料番号なし)	地震調査研究推進本部政策委員会第46回総合部会議事次第
(資料番号なし)	第46回地震調査研究推進本部政策委員会総合部会 配席図
(資料番号なし)	地震調査研究推進本部政策委員会第46回総合部会議事次第議事進行メモ
資料 総46- (1)	地震調査研究推進本部政策委員会総合部会構成員
資料 総46- (2)	地震調査研究推進本部政策委員会第45回総合部会議事要旨 (案)
資料 総46- (3)	国土交通省の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (3) - 1	国土交通省 (気象庁) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
(資料番号なし)	国土交通省 (気象庁) の補足資料
資料 総46- (3) - 2	国土交通省 (海上保安庁) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (3) - 3	国土交通省 (国土地理院) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (4)	経済産業省 (産業技術総合研究所) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (5)	総務省の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (5) - 1	総務省 (消防研究センター) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (5) - 2	総務省 (情報通信研究機構) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
(資料番号なし)	総務省 (情報通信研究機構) の補足資料1 (参考資料)
(資料番号なし)	総務省 (情報通信研究機構) の補足資料2
資料 総46- (6)	文部科学省の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (6) - 1	文部科学省 (文部科学省内局) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (6) - 2	文部科学省 (防災科学技術研究所) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
(資料番号なし)	文部科学省 (防災科学技術研究所) の補足資料 (参考資料)
資料 総46- (6) - 3	文部科学省 (海洋研究開発機構) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
資料 総46- (6) - 4	文部科学省 (国立大学法人) の平成27年度地震調査研究関係予算に係るヒアリング資料
(資料番号なし)	文部科学省 (国立大学法人) の補足資料
資料 総46- (7)	平成27年度の地震調査研究関係予算概算要求について (原案)
参考 総46- (1)	地震調査研究推進本部政策委員会総合部会今後の予定について
参考 総46- (2)	平成27年度の地震調査研究関係予算要求に反映すべき事項について
参考 総46- (3)	第45回総合部会の議事概要
(資料番号なし)	関係機関ヒアリング説明者一覧

### 3. 改善策

- 会議資料のペーパーレス化  
困難な場合は、机上資料のみのペーパーレス化も  
ご検討いただきたい（後述）

### 4. 利点

- 机上が整理される。
- 電子ファイルの場合、検索機能等を使うことで、たとえば「○○という文言は××計画の△ページにある」といったことがすぐに分かるようになる。
- 膨大な印刷資料を持ち帰っていただく必要がない。

## 5. 当面の運営イメージ

- (1) 議事次第等の最小限の資料は印刷して配布
- (2) 円卓席上に端末（ノートパソコン）を配布  
（ご自身のパソコン等を御持参でない委員の方）
- (3) 資料はUSBメモリに保存して配布
- (4) 席上の端末で該当資料を自由に閲覧  
ファイルへの書き込みや、コピーは自由
- (5) 会議終了後は、端末及びUSBメモリは席上に置いたまま退席

## 6. ポイントと留意点

○現在文科省に整備されている枠組み（設備）の中で、できる範囲で試行

→ 運営の仕方はこれで決定ではない

○可能な範囲で端末を御持参いただく必要がある

→ 全ての委員の方にお貸しできるだけの端末の台数がない（事務局を含め、全15～18台）

○毎回必ず端末を設置できるわけではない

→ 他の会議等の先約がある場合 等



電子化会議を開催できない場合には、従来通り、印刷した資料を配布。

机上資料についてはスクリーンに映すなど柔軟に対応。

## 6. ポイントと留意点（続き）

### ○傍聴者への対応

- 地震調査委員会は原則非公開だが、総合部会  
は議題によっては傍聴を受け付けている
- 委員の方以外に文部科学省の端末やUSBメモリ  
を貸し出すことは、セキュリティ等のうえから困難
- 傍聴者（随行者を含む）へは、印刷した資料の  
配布の継続が必要

○パンフレット案など、印刷することでよりイメージが湧く資料も存在する。また、予算調整の際の評価シートなど、筆記が必要な資料もある。

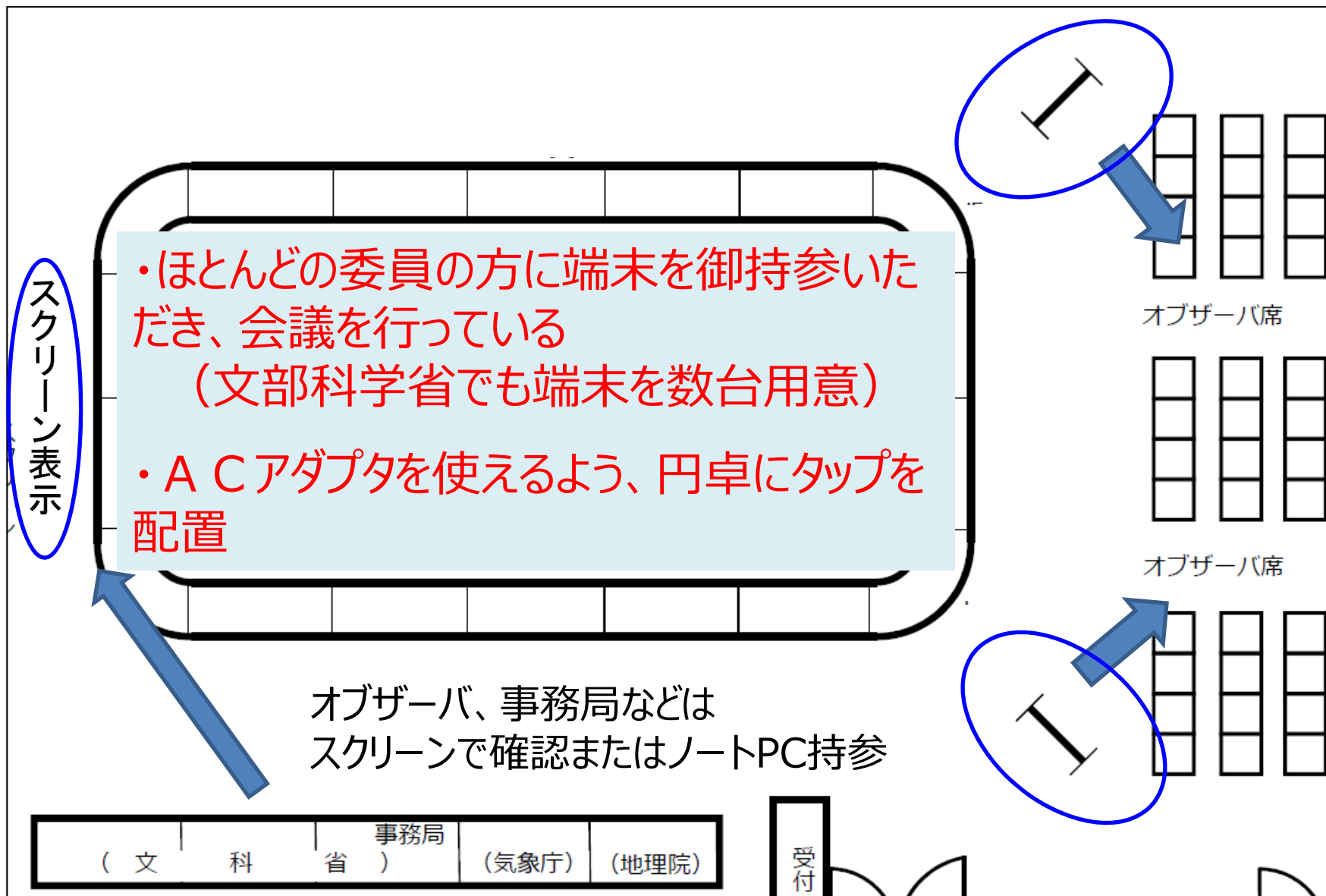
- 電子ファイルと印刷物の両方を用意するなど、柔軟に対応



## 7-1. 先行的な取組例（地震調査委員会）

- 地震調査委員会（定例会）では平成26年5月より、以下の資料を除いて、会議資料の電子化を行っている。
  - 議事次第
  - 座席表
  - 毎月の地震活動の評価文（案）
  - その他一部の資料（持ち込み資料等）
- 導入にあたって、委員の方からの反対意見はとくに無く、導入後も顕著な問題は生じていない。
- オブザーバ、事務局に対しても、端末持参を呼び掛けている。端末のないオブザーバ向けには、スクリーンやディスプレイで、説明資料を表示。

## 7-2. 地震調査委員会の運営イメージ



# 第267回地震調査委員会（9月9日開催）の様子



正面に  
スクリーン



随行者、傍聴者も端末を持参  
※手前の人にはスクリーンを見ている



テーブルタップ

23種の会議資料がUSBで配布されている  
机上は、端末以外には最低限の資料のみ

### 7-3. 調査観測計画部会での導入

- 平成26年9月16日の第73回調査観測計画部会において、会議資料と机上資料の電子化をそれぞれ事務局より提案。反対意見はなく承認いただいた。
- 次回（第74回）から、会議資料と机上資料を電子化する予定。

## 8. 説明される側の配慮（お願い）

- 出欠確認の際、端末持参の有無についてもあわせてご連絡いただく
  - ※ご持参されない場合、当日お忘れになった場合は、文部科学省の端末をお使いいただきます。
- 「何ページのどの部分か」ということの説明
- ファイル操作時間を考慮した、若干の間を意識していただく
- 電子ファイルのページ数と、実際に記載してあるページ数を極力合わせていただく  
(委員や関係機関の方から資料をご提供いただく場合)

## 9. 机上資料のみペーパーレス化する場合

会議資料のペーパーレス化が困難な場合でも、机上資料だけでもペーパーレス化されれば効果はある。

(出席者にとっての利点)

- 机上資料について、電子ファイルに「書き込み」をしていただいて差し支えない。
- 御自身のパソコン等にコピーしていただければ、机上資料についてもお持ち帰りいただくことが可能。

(事務局にとっての利点)

- 机上資料の印刷、ファイル綴じ作業の手間が無くなる。